

幸せ運ぶ休鳥

純粹倫理は 実行から入る



え・城谷俊也

八月のテーマ

万人幸福の栞

『万』

人幸福の栞』は実践の書物です。実行によって直ちに正しさが証明できる生活の法則が書かれています。

「中には常識をかけたはなれた耳新しいこともあり、表わしにくいために、たとえをもつてしたのもあります。すべて無条件に、このまま実行していただきたい」(十頁)

実行すると、そこには必ず新しい結果が現われ、思いもよらぬ幸福な環境が開けると記されています。信じるか信じないかではなく、やってみればそれだけわかるという学び方が書かれてあるのです。

さて、読み進めればすぐにわかることですが、本書には、実行しやすいガイドとして、古人の金言や他の書物からの引用が次々と登場します。

たとえば『聖書』からの引用もいくつか紹介されています。次のような言葉です。

「門を叩け、さらば開かれん。」「狭き門より入れ。滅ほろぶにいたる門は大きく、その路は広く、之より入る者多し。生命いのちにいたる門は狭く、その路

は細く、之を見出すもの少なし。」(三十頁)

「おのれの如く汝の隣を愛すべし。」「仇を愛し汝等を責むる者のために祈れ。」(六十三頁)

いかがでしょう。抽象的な言葉を日常の様々な場面にあてはめれば、少しの勇気で実行できそうなことばかりではないでしょうか。

一方、引用文以外にも、ゴチック体(ゴシツク体)で表記された文言が多くの箇条に存在することに気づきます。

『気づくと同時に行なう』の部分の強調を意味する太字のゴチック体は、著者が印刷するように指定しました。第一条では「ただだけがゴチック体です。すなわちこの第一条でもっとも訴えたかったのが『気づくと同時に行なう』であったと見なければなりません」

『ひとすじのみち』丸山敏秋著次に記す文言もゴチツク体です。「人を改めさせよう、変えようとする前に、まず自ら改め、自分が変ればよい」(四十二頁)

「うまく行かぬから、望みを失うの

ではない。望みをなくするから、崩れて行くのである」(百頁)

本書の最後、百六十頁にもゴチツク体の文言が出てきます。

「片手をあげて額ひたいにあてた」
二十二ページに及ぶ第三部「死は生なり」の中で、ただ一カ所ゴチツク体になっている文言です。

これは一九四七年、イギリスの植民地支配にあったインドを独立に導き、「独立の父」と呼ばれたマハトマ・ガンジーのエピソードとして取り上げられています。ガンジーは、自分をピストルで打ち抜いた青年に対し、瞬間、ヒンズー教徒が相手に許しを与えるしぐさをとったというのです。

これは常人ではとてもできることではないでしょう。しかし、會員心得として、「人を愛して争わず、互いの繁栄をねがいます」と宣言する我々にとって目指したい心境でもあります。

本書にはガンジーの言葉も一カ所引用されています。

「愛は悪に対する唯一の武器である。」(六十四頁)